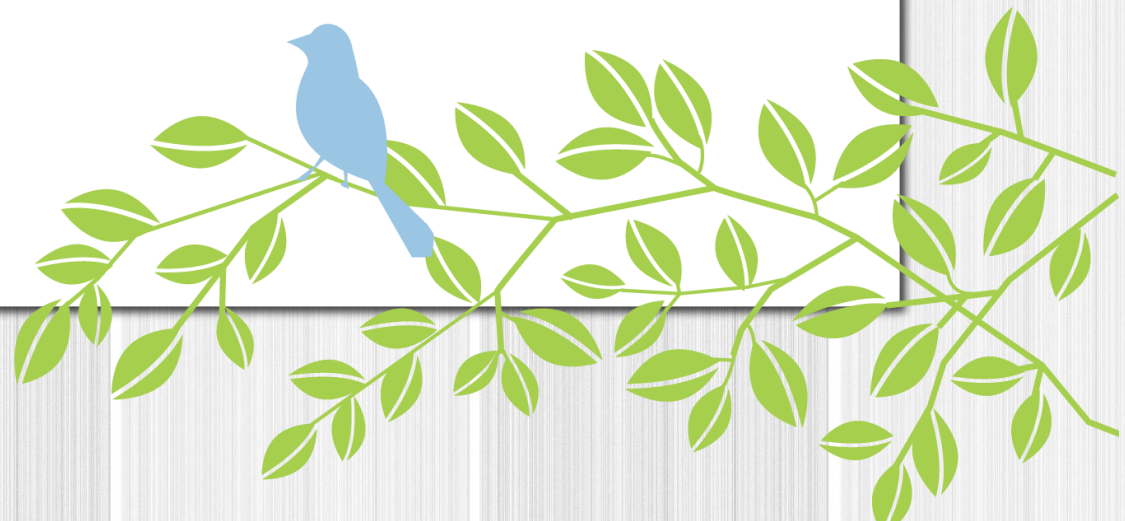


# 夜間看護補助者導入による 看護師業務の軽減に向けた取り組み




寒河江市立病院  
副看護師長 尾形 和美





## 施設概要

- 設置主体：自治体病院
- 病床数：98床
  - 一般56床（看護配置10：1）
  - 地域包括ケア病床33床 療養9床（看護配置13：1）
- 病床稼働率：86.4%（令和3年度）
- 一般病床平均在院日数：17.5日（令和3年度）
- 診療科：内科 整形外科（外科・皮膚科・眼科・泌尿器科）
- 職員数：156名
- 看護師数：78名（平均年齢46歳）




病院理念  
私達は、地域住民  
に信頼され、安全で  
安心な、笑顔の病院  
を目指します





## 病棟概要

- 病床数：一般56床 内科と整形外科の混合病棟
  - 看護師数：29名（看護師長含む） 看護配置：10：1
  - 看護補助者数：日勤4名 夜勤4名（16：30～23：30）
  - 事務的作業補助者：1名
  - 看護体制：固定チームナーシング（2チーム制）
  - 勤務体制：3交代制（3人夜勤、準夜＝16：30～1：15）
  - 特徴：＊□患者の約75%以上が80歳以上の高齢者
    - ＊□主な疾患は肺炎・心不全・大腿骨近位部骨折など
    - ＊□院内の全入院を受け入れ、手術患者もいる病棟
    - ＊□高度急性期の治療を終えた患者を積極的に受け入れ、地域に繋ぐ役割がある
- 



## 夜間看護補助者について

- 年代：全員が50歳代
- 有資格：全員なし
- 経験の有無：経験者3名（介護職・看護助手）  
未経験者1名
- 当院での勤務時間： 15:30～23:30  
16:30～23:30  
16:30～22:30





## 夜間看護補助者導入の背景と目的

- 入院患者は一日平均3.5人で即日入院が約9割を占める  
その内約7割が午後から消灯(21時)にかけて入院している
- 整形外科の予定手術(月平均15件)は午後からで、帰室は  
15時~17時台が多い
- 80歳以上の高齢患者が75%以上で日常生活の援助が必要  
な方が大半を占めている 認知症を有する方もおり、離床セ  
ンサーベッドを多数使用しセンサーコールが頻繁である
- 日勤看護補助者1名は19時までの遅番であるが平日のみ
- 看護師の業務が繁雑で時間外勤務となることがあり、安全  
な業務の推進のため、準夜帯の看護補助者4名採用となる
- 夜間急性期看護補助体制加算(50:1)取得




**取り組みの目的: 準夜勤看護師業務の負担軽減**





## 取り組み内容① 導入準備期間：令和3年10月

- 1. 看護師長より自部署の看護補助者サポートメンバー2名（副看護師長1名、看護師1名）に夜間看護補助者の導入の説明があり、看護師と看護補助者が協働し安全な業務ができるように業務整備と教育の依頼を受けた
  - 2. 「看護チームにおける看護師・準看護師及び看護補助者の業務のあり方に関するガイドライン」に基づき、業務範囲に沿った業務内容（タイムテーブル）を作成し、看護師へも説明
  - 3. 看護科の看護補助者サポートチーム会にて年5回の研修を企画（看護師との協働と業務範囲、医療安全KYT、感染対策、離床センサーベッド、褥瘡予防とエアマットについて）した内容を夜間補助者にも研修できるようにDVDを作成
  - 4. 看護師を対象とした研修の実施（責務・協働について）
- 



## 取り組み内容②導入開始後：令和3年11月～

入職後からの期間	取り組み内容
3週間	☆日勤業務からスタート ☆OJT、日勤看護補助者と一緒に周辺業務から入り、担当看護師指示のもと直接業務 ☆医療安全研修、感染対策研修 ☆サポートメンバーより夜間業務の説明と業務経験の項目が網羅されているかを確認
4週目	☆日勤遅番看護補助者と一緒に夜勤体験
2ヶ月目	☆夜勤業務スタート ☆OJT、オムツ交換は準夜勤看護師と一緒に
4ヶ月目	☆食事介助スタート(直接ケア指示書活用)



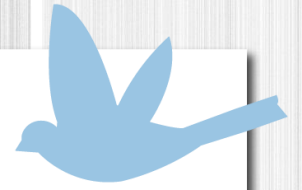


## 夜勤の導入にあたり工夫した点

- 1.患者の安全・安楽のために
  - ☆オムツ交換は看護師とペアになって実施
  - ☆食事介助はサポートメンバーが3回以上手技を確認した後、4ヶ月目から開始（注意点は直接ケア指示書にて指示）
- 2.確実に業務ができるよう、タイムテーブルを作成
  - ☆周辺業務:環境整備、ポータブルトイレ清掃、尿破棄、洗濯入院セットのオムツ補充、即日入院のベッド・書類準備など
  - ☆直接業務:オムツ交換、更衣、食事介助など
- 3.日勤(常勤)と夜勤(派遣)の看護補助者間の連携方法
  - ☆連絡ノートを活用し、残務依頼や気づいた点などを記入
- 4.夜勤勤務中に研修DVDを視聴できるよう時間調整







## 取り組みの成果・効果①

- 1.看護師からのアンケート調査結果より(導入2ヶ月後)

Q.夜間看護補助者が入ったことは効果がありましたか？

A.効果があった:約6割

どちらともいえない:約4割

Q.効果があったと回答した方へ、どんなことですか？

☆忙しい時間帯の食事セッティング・配膳・下膳が助かる

☆休日は看護師しかいなかったため負担軽減を実感している

☆患者対応やラウンドに時間をかけられるようになった

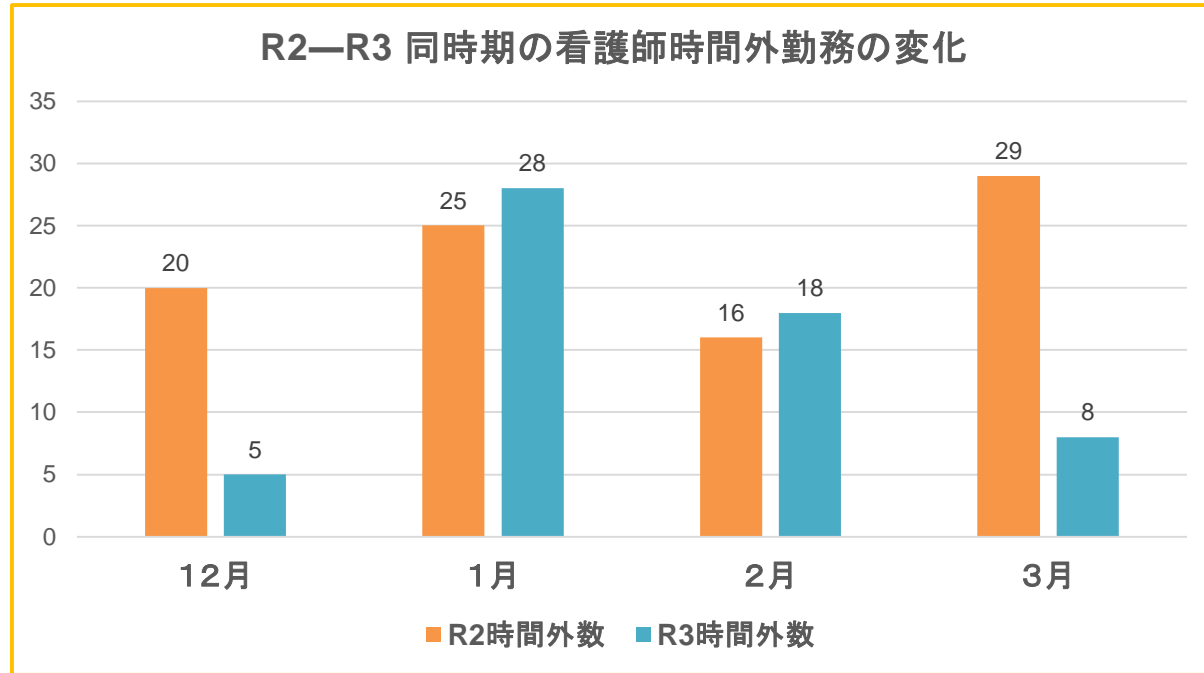
☆患者の依頼を報告していただき助かる

☆環境整備や物品の補充・後片付けが充実してきた



## 取り組みの成果・効果②

- 2. R3年夜勤導入後の前年同時期時間外数比較：約35%減



- 3. 日勤看護補助者からの聞き取り結果
  - \* 口夕方、仕事が残っていても夜勤の方をお願いできるため、  
安心して帰ることができるようになった
  - \* 遅番勤務がなくなり負担感が減った



## 今後の展望

- 1.夜勤看護補助者の業務タイムテーブルに沿って、看護師の指示のもとに安全な業務ができるようになってきた。今後は、認知症患者の見守りなどを取り入れ、看護補助者との協働により看護の質向上に繋げていく。
- 2.入院した患者情報の電子カルテへの転記入力は、日勤の事務的作業補助者が行なっているが、夜勤看護補助者も転記入力できれば、準夜勤看護師の負担軽減になるため、消灯後の時間を活用するなどして今後指導をしていく。

現場を変えて、患者さんもスタッフもにっこり😊

